

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、書籍・文房具小売業、写真機・時計・眼鏡・貴金属小売業、木材・建築材料小売業が大きく悪化傾向を強め、繊維・衣服身の回り品小売業、飲食料品小売業、自動車・自転車小売業は悪化傾向を強めました。一方、医薬品・化粧品小売業、燃料小売業は悪化傾向を弱め、家庭用機械・電気機械器具小売業、スポーツ用品・娯楽用品・玩具小売業、その他小売業は横ばいとなりましたが、全体的には-63と前期に比べ9ポイント悪化傾向を強めました。売上額は12ポイント、収益は5ポイント減少傾向を強めました。販売価格は9ポイント下降傾向を強め、仕入価格は下降傾向に転じました。在庫はわずかに不足に転じました。資金繰りは2ポイント窮屈感が弱まりました。残業時間は3ポイント減少傾向を強め、人手は不足に転じました。設備の状況は5ポイント不足感を強め、設備投資を実施した先は車両を中心に10%と、前期に比べ4ポイント減少しました。

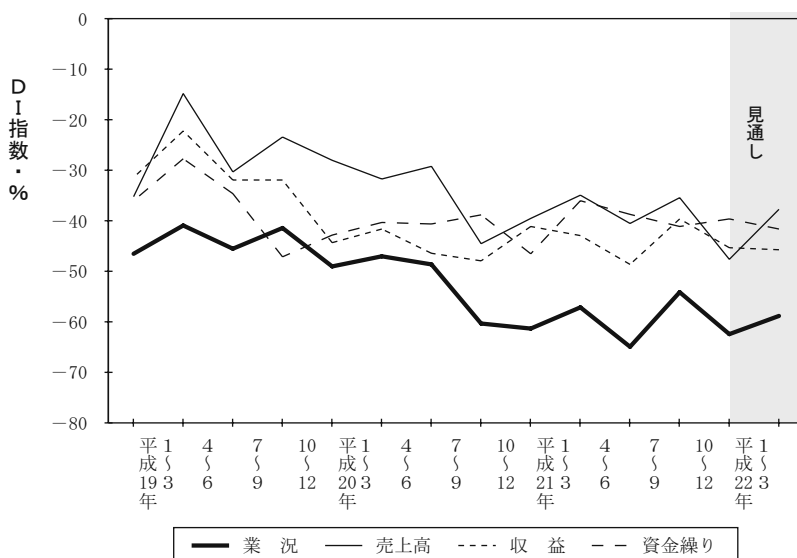
来期の見通し

業況は、医薬品・化粧品小売業が良好傾向に転じ、書籍・文房具小売業は大きく悪化傾向を弱めるとみえています。また、繊維・衣服・身の回り品小売業、燃料小売業、その他小売業は悪化傾向を弱め、家庭用機械・電気機械器具小売業、スポーツ用品・娯楽用品・玩具小売業、木材・建築材料小売業は横ばいになるとみえています。一方、飲食料品小売業、自動車・自転車小売業、写真機・時計・眼鏡・貴金属小売業は悪化傾向が強まるとみえています。全体的には-59と4ポイント悪化傾向を弱めそうです。売上額は10ポイント減少傾向を弱め、収益は1ポイントわずかに減少傾向を強めるとみえています。価格面では、販売価格は横ばい、仕入価格は7ポイント下降傾向を強めそうです。在庫はほぼ適正となりそうです。資金繰りは2ポイント窮屈感が強まるとみえています。残業時間は10ポイント減少傾向が弱まり、人手は3ポイント不足感が弱まりそうです。設備の状況は3ポイント不足感が強まり、設備投資については、車両を中心に8%が実施予定とし、今期に比べて2ポイント減少するとみえています。

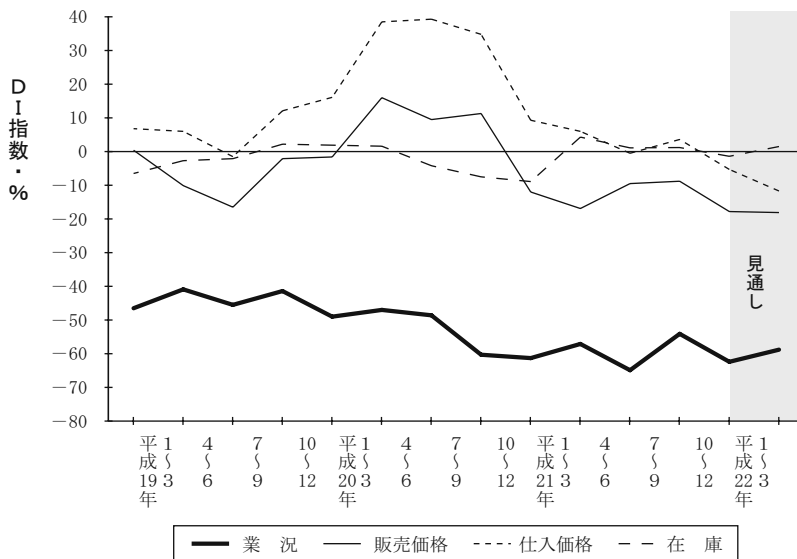
調査員のコメント

- 商品や店舗のディスプレイなどを工夫し、顧客拡大の努力をしている。引き続き経費節減等の努力している。(衣料小売販売)
- 店舗内で展覧会を開催するなど、集客努力をしている。また経費節減を図り経営の安定に努力している。(写真機小売販売)

景況の推移



主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期(21年10月~12月) / 前期(21年7月~9月)

		△100	△90	△80	△70	△60	△50	△40	△30	△20	△10	0	10	20	30	40
繊維・衣服・身の回り品	業況															○ ← ●
飲食料品	業況															○ ← ●
書籍・文房具	業況															○ ← ●

経営上の問題点	1位	売上の停滞・減少(1)	68%
	2位	大型店との競争の激化(2)	32%
	3位	同業者間の競争の激化(4)	31%

当面の重点経営施策	1位	経費を節減する(1)	68%
	2位	売れ筋商品を取り扱う	32%
	3位	品揃えを改善する(2)	30%

*()は前回順位